

附属学術情報センター

学術情報と情報システムの融合



センター長
教授
黒田 直人

1. 附属学術情報センターの成り立ち

附属学術情報センターは、附属図書館と附属展示館を母体とし、平成18年に発足しました。その際に、学内LANの運用・管理を行う情報システム業務を統合し、現在の形となっています。

2. 附属学術情報センターの各業務

(1) 図書館業務

図書館は、中庭に面した独立した建物です。医学・看護を中心として蔵書228千冊、雑誌7,600種類、近年は電子資料も多く収集しており、電子ジャーナル6,500タイトル、電子ブック4,700タイトルを有しております。データベースも医中誌Web、Scopus など7種を契約しており、文献検索等に役立てていただいております。

開館は通常平日朝9時～夜7時までですが、入退館システムのICカード登録を行った学生・教職員の方は早朝6時から夜11時まで、土日祝日も朝9時から夜7時まで図書館を利用することができます。また、入院患者やご家族の方、地域医療従事者をはじめとする

一般住民も平日の開館時間内に図書館資料をご利用いただくことができ、一定の条件により貸出も行ってあります。

平成23年からは近隣の福島大学、福島県立図書館と「ふくふくネット」という連携協定を交わし、相互の圖書の取り寄せ、返却図書を受け取って回送するサービス等を行っております。

このほか、当館にない資料を他館より取り寄せる相互利用等様々なサービスを行っており、皆さまの学習・研究等のお役に立てるよう努めております。図書館について、ご不明なことがありましたらカウンターでお尋ねください。

(2) 展示館業務

展示館では、臓器や病理の標本、模型、医療機器、教材等の展示を行い、医学の学習に役立てていただいております。

学内教職員・学生の利用を目的としてはおりますが、一般の方も申請して利用することができます。平日朝9時から夕方5時までとなっておりますので、ぜひお立ち寄りください。利用の際は献体された方の意思を尊重し、敬けんな気持ちを忘れないようお願いいたします。

(3) 情報システム業務

本学では、fmu.ac.jpのドメイン名を取得し、平成6年8月からインターネットへの接続を始めました。当時は、借り物のサーバを使用し、学内外の有



学術情報センター外観

志の助けを借りて電子メールやネットニュースなどのサービスを提供してました。

その後、内線電話によるIP接続や図書館内LANの構築などを経て、平成11年に学内LANを、平成25年には全学無線LANを整備することになりました。

近年では、情報システムの運用・管理だけではなく、情報セキュリティ対策も重要となっており、特に人的セキュリティ対策をどのように推し進めるかが大きな課題となっています。

3. おわりに

このように、学術情報とその提供手段である情報システムを融合した組織が附属学術情報センターです。

今後も、大学の教育・研究・診療をサポートするため、サービスの充実を図って参りたいと思います。

「Student Doctor」としての決意を胸に 白衣式を挙行

10月11日(金)、本学第2臨床講義室で「白衣式」が挙行され、鈴木弘行病院長より医学部4年生127名ひとりひとりへ、白衣が手渡されました。

白衣式は、10月21日(月)から72週間の臨床実習に臨む医学部4年生が、医師を目指す者としての自覚と心構えを新たにすることを目的に行われます。医学部生が診療参加型の臨床実習を行うためには、共用試験と呼ばれる全国共通の試験に合格し、「Student Doctor」として認定を受ける必要があります。

厳しい試験を突破し、束の間の安堵の表情を浮かべる学生たちでしたが、今日、新たな白衣を身に纏い、その表情にこれまで以上の真剣さと頼もしさが宿ったよう

す。式では、竹石恭知医学部長から「患者さんへの敬意のある行動を」、白衣を手渡した鈴木病院長から「長い医師人生の中で本日の気持ちを忘れずに」とお話がありました。両先生の激励の言葉に、更に身が引き締まったことでしょう。

学生代表の青木悠伍(あおき ゆうご)さんによる「患者さんやその家族の苦しみを分かち合い、良い信頼関係を築くことができる医師を目指す」という誓いを白衣の内側に刻み込み、新たな学びの姿に期待がかかります。

白衣式の様子



米国 保健福祉省副長官 Eric Hargan 氏が来学

10月19、20日に岡山で行われるG20保健大臣サミットに参加するために来日した、米国保健福祉省副長官、Eric Hargan (エリック・ハーガン) 氏が、サミット前の17日に米国大使館関係者を伴って本学を訪問しました。

ハーガン副長官は、竹之下誠一理事長兼学長、齋藤清副理事長、大戸斉総括副学長、山下俊一副学長(国際担当)などの出迎えを受けた後、医学部2年生を対象に、特別講義を実施。

“Health & Emergency Preparedness and Response: Lessons learned for the future” (医療の緊急事態への備え：将来のための教訓)と題し、自身の米国におけるハリケーン・カトリー

ナによる災害での医療体制の崩壊の経験と、その後の法整備への関与について講演しました。講演後には、何人もが質問に立ち、災害時の伝染病対策や、高齢化社会への備えについてなど、予定時間ぎりぎりまで副長官と英語で議論しました。

その後、医学部3年生 木下瑠菜さん、年名悠さん、楯和馬さんの案内によるキャンパスツアーに参加。3.11時の本学の対応や、線量の変化、除染活動等につき説明を受けたほか、放射線災害医療センターでは、放射線災害医療学講座の長谷川有史教授による、汚染のある傷病者受け入れのトレーニングを見学しました。



全てのプログラム終了後、エリック・ハーガン副長官は、感謝の言葉と共に、「災害時に重要な役割を担う医療関係者を目指す福島医科大学の学生との交流が大変有意義だった」とコメント。今回の本学への訪問を高く評価しました。

図書館内用の様子



展示館内用の様子

